

第1回 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 (平成27年8月21日(金)開催)の主な意見

観光振興

- ストーリー性のある体験型観光も考えられるが、地域性のある文脈が乏しい取り組みは、なかなか受け入れられない。歴史の地域資源に結びつけたストーリーがよい。(内田座長)
- 時系列で地域の資源を歴史的につなげていくことは、ベッドタウンなので通勤族の方も含め、地域住民が地元で自信を持ったり、正しく認識したりする上で非常に重要。(内田座長)
- 滞在人口や交流人口が増えて、はじめて街のブランドイメージを持ってもらえる。ブランド形成には地元の認知度向上が不可欠。地域ブランドの成功事例調査では、埋もれていた地域資源の地元認識率は9割だった。(内田座長)
- 本市は様々なコンテンツがあってポテンシャルは高いので、関係者の意識がまとまれば、コラボやパッケージ化等、良い方向へ進む。(内田座長)
- 道路等の新設は難しくても情報提供や通過交通量との分散の工夫等でアクセス改善は可能。名古屋駅からバスのピストン輸送等、市外からの来訪者の利便性を向上すべき。(内田座長)
- シニア層の獲得には、本物志向が大切。(内田座長)
- 観光地での滞留時間を長くするには、来訪者がまとまったお金を使わずゆっくりできる場所が必要。例えば、高島屋では椅子をたくさん設置する工夫をしている。(内田座長)
- メディアは、ストーリーや話題性のある情報を取り上げる。朝日遺跡を活用した麒麟のクラフトビールづくり等、地域も企業もウインウインとなる。(内田座長)
- 何のためにやるのかをしっかりと固めるべき。単純に来ていただく方を増やすのか、その方々に「清須市はいいところだ」と思ってもらえるのか。量と質のバランスを要検討。(山本委員)
- 休日の滞在人口増加が重要。そのためには観光振興が欠かせないが、点ではなく、面での活用がポイント。まず、主なターゲットと目的を定めてから、取り組みを検討すべき。(山本委員)
- 企業の連携、コラボが重要だと考えるので、清洲城や朝日遺跡の資料館等とのアクセスの充実やクーポン券の配布や、全施設を回った方への粗品進呈も一案。(山本委員)
- 休日にかに人を呼び込むかについて、地域と地域の連携を促進するために長期的な持続性のある施策を講じる必要がある。(富田委員)
- 朝日遺跡は、吉野ヶ里遺跡に匹敵する全国でも五指に入るもので、その出土品は愛知のモノづくりの原点。市の宝として活用する視点から何ができるか考えたい。(富田委員)
- 単独では難しくても、コラボやパッケージ化で個々の魅力が高まる。(富田委員)
- 個人的に博物館等に行くとボランティアの方が熱心に説明していただけるので、地元で愛されることが大切だと感じる。朝日遺跡を地元の方に愛してもらえるようにしたい。(富田委員)
- 信長は単体でも魅力的だが、清洲城と新幹線等、組み合わせの工夫も必要。(北山委員代理丹羽教頭)
- 清洲城には消極的な案内所があるだけで、子ども連れで来た人が休める場所がない。今のままでは、また来たいと思えないのではないかと。(舟橋委員)
- 地元での朝日遺跡の認知度が低い事が残念。遺跡や文化財は、専門家のもではなく、市民へと連続と続く原点なので、情報の見える化、共有化が極めて重要である。(山田委員)
- 全国的に見れば、観光は自動車関連製造業のGDPベースの経済規模とほぼ一緒。観光を考える場合、インバウンドも考えないといけないが、まずは地元の方が地域の魅力をどう認識するかが大前提で、

外部へのPRはその次の段階。消滅危機にある地域に比べれば、ヒト・モノ・カネが集まり恵まれているが、地域住民が自信を持って清須のことを好きだと言える社会を作ることが基本。(山田委員)

- 点ではなく面での取組みと、連続と現代に続く時間軸が重要。自然環境等、背景の幅広い認識に基づき、歴史の必然を理解して、次世代に何を残すかを考える必要がある。この会議を通じて、地域の再認識に向けて地道に取り組むにつなげていくことが重要。(山田委員)

アクティブシニアの積極的な社会参加と健康づくり

- 労働人口が減る中で、健康寿命を延ばすことは重要。(内田座長)
- シニアは仕事と別の活動を持つと健康と生きがいにつながる。生きがい・やりがいを感じられ、地域貢献もできる上に、元気でいられるという相乗効果によって、人生を充実させられるムーブメントが起きれば素晴らしい。「名刺を2枚持つ」ライフスタイル(富田委員)
- 高齢化は避けられないが、シニアがアクティブであり続けるにはどうすればよいかを考えるべき。(舟橋委員)
- 大学では市や市社協と協力して、体力測定や体操教室を行っている。(舟橋委員)
- 本市の高齢者(特に男性)は引込み思案で、個人で何かに取り組む事は消極的。(舟橋委員)
- 介護問題の解決のためにも、シニアの健康は重要。リハビリや体操教室が必要。(舟橋委員)
- 団塊の世代の方々は家庭を顧みずに仕事をされてきたが、家庭の中では異分子となってしまう、もったいない。地域のために働くことで、生きがいを見出していただくことが重要。(山田委員)

若者目線からの定住・結婚・子育て支援

- 名古屋があるので、卒業生は比較的地元に戻ってくるが、市内で働く人は少ない傾向。(北山委員代理丹羽教頭)
- 8割いる市外在住の生徒が、在学中に本市を好きになれば、将来、定住の選択肢となるので、若い時の印象は重要。その観点では、駅からの交通の不便さは課題。(北山委員代理丹羽教頭)
- 少子高齢化で労働人口が減り、女性の方にご協力をいただくとなると、企業は、女性が働きやすい環境を整備する。市の子育て施策も拡充していただければ、市内に住みながら働く方が増えるのでは。(平野委員)

その他

- 企業立地については、近年増えている都市型災害への備えやバックアップ体制をPRする必要がある。(内田座長)
- 新川高校は開校から30年経つが、現在地元4中学校占有率は2割を下回っており、960名の生徒の内、約700名は市外から通っているため、この地域の魅力を知ってもらい取り組みを始めた。(北山委員代理丹羽教頭)
- 本市には道路や土地活用の面で課題を感じる。(舟橋委員)
- JR、名鉄ともに駅周辺に寂しい印象を受けるので、魅力の向上が重要。(舟橋委員)
- コラボレーションの場ができた事は素晴らしい。(山田委員)
- 人口施策は効果に時間がかかる。今は困っていなくても、必要な対策は先を見据えて実施すべき(平野委員)
- 地元企業にとっては、地域の安全安心が第一。(平野委員)
- 庄内川に架かっているJRと名鉄の高架化を進め、安全な地域にしてほしい。(平野委員)